

平成24年5月11日

第15回「信用金庫社会貢献賞」の受賞活動決まる！
「官民広域連携による地域づくりの取り組み」の
青梅信用金庫（東京都）が会長賞に

一般社団法人全国信用金庫協会

全国信用金庫協会（会長：大前 孝治）が実施している、信用金庫業界の顕彰制度第15回「信用金庫社会貢献賞」の受賞信用金庫、個人受賞者がこのほど決定いたしましたので、お知らせします。

第15回「信用金庫社会貢献賞」受賞活動

賞の種類	信用金庫名（都道府県）	受賞活動名
会長賞	青梅信用金庫（東京都）	官民広域連携による地域づくりの取り組み
Face to Face 賞	新井信用金庫（新潟県）	青少年図書充実基金への支援
	尼崎信用金庫（兵庫県）	あまちゃん・しんちゃんプロジェクト
特別賞	のと共栄信用金庫（石川県）	<small>せきどうさん</small> 石動山での森づくり活動
	鳥取信用金庫（鳥取県）	山陰海岸ジオパーク応援による地域貢献
地域活性化しんきん運動・優秀賞	<small>おしま</small> 渡島信用金庫（北海道）	協同組合への支援による地域貢献活動
	多摩信用金庫（東京都）	地域と連携した創業・CB支援
個人賞	大地みらい信用金庫（北海道） 鳥越 基子氏	北方四島住民へのロシア語通訳ボランティア
	二本松信用金庫（福島県） 佐藤 裕之氏	スキーを通しての青少年育成活動
	朝日信用金庫（東京都） 檜垣 萌子氏	ブラインドスキーサポーター活動

本賞は、地域に生まれ、地域とともに歩む信用金庫が、さまざまな分野で地域貢献・社会貢献活動を実践している真摯な姿を多くの方々に知っていただくとともに、地域における存在価値を一層高めていくことを目的に、平成9年に創設いたしました。このような、地域に根ざした永年にわたる信用金庫の地道な活動に光を当て、これを顕彰することは大きな意義があると考えております。

今回は、昨年11月から本年1月までの募集期間に、150信用金庫・2関係団体から479件の応募がありました。その活動内容は多岐にわたっており、環境保全や社会福祉、金融教育支援、高齢化社会への対応のほか、地域活性化への取り組み、次世代経営者の育成、取引先の販路拡大策など、どれも地域に根ざした信用金庫の不断の努力と叡智を結集したものとなっています。選考委員会での厳正な審査の結果、会長賞をはじめとする受賞7信用金庫、個人受賞3名の活動が決定いたしました。

なお、来る6月20日（水）開催の第130回全信協通常総会において表彰式を執り行う予定です。

私ども信用金庫業界では、東日本大震災の発生直後から今日まで、被災された方々のために「つなぐ力」を発揮して、救援物資の配送、皆さまからの義援金のお取扱い、被災地でのボランティア活動をはじめ、様々なかたちで支援活動に取り組んでおります。今後とも、地域の皆さま、中小企業のために全力を尽くして参る所存ですので、信用金庫に対するご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

<参考> 第15回「信用金庫社会貢献賞」応募状況

地区別応募状況

地区名	金庫・団体数	応募件数
北海道	12	34
東北	12	35
関東	21	62
東京	15	52
北陸	6	14
東海	29	99
近畿	28	110
中国	11	23
四国	2	10
九州北部	5	15
南九州	9	23
団体	2	2
合計	152	479

活動分野別応募状況

活動分野	応募件数
地域社会活動	255
スポーツ	49
社会福祉	30
芸術・文化	27
教育	38
環境	56
健康・医学	7
国際交流	3
史跡・伝統文化保存	4
災害救助	10
合計	479

<p>本件についてのお問合せは、全国信用金庫協会 広報部 小西、斎藤、磯、鈴木(拓)、山本 (TEL.03-3517-5722 FAX.03-3517-5792)までお願いいたします。</p>
--

第15回「信用金庫社会貢献賞」の選考総評と受賞活動の概要

1. 選考総評 被災地支援のためにも元気と経済発展を

選考委員 松岡紀雄氏（神奈川大学名誉教授）

東日本大震災や福島原子力発電所の事故では、被災地の人々が苦しみの中で互いに助け合い、また駆けつけたボランティアが懸命に救援活動に取り組む姿が、世界の人々の感動を呼んでいる。「絆」という文字が昨年を象徴する漢字に選ばれたが、これは信用金庫の原点である「非営利・相互扶助」の精神、そのものと言えよう。第15回目を迎えた信用金庫社会貢献賞には、152の金庫・団体から前年を上回る479件の応募が寄せられたが、これらを支えているのも、そうした絆、相互扶助の精神であるに違いない。

今回の**会長賞**には、白熱した議論の末に、青梅信用金庫の「官民広域連携による地域づくりの取り組み」が選ばれた。人口減少や経済悪化による地域衰退の危機感から、同金庫では「CSR（企業の社会貢献）に係る負担は、コストではなく地域への投資である」と考えるようになった。市民、NPO、企業、大学、行政等による、「公民のネットワーク」が不可欠との認識から、多摩川を「コモンズ（共有財産）」として、信用金庫の本領とも言える「つなぐ力」を発揮している。

「100年プラン」と名付けた長期的な視点に立っていることに加えて、東北復興支援プロジェクト「東北・夢の桜街道プラン」を立ち上げ、国土交通省や東北6県、全国100余の信用金庫の後援を得た活動を展開していることも高く評価された。

Face to Face賞には、新井信用金庫の「青少年図書充実基金への支援」と、尼崎信用金庫の「あまちゃん・しんちゃんプロジェクト」が選ばれた。前者は、34年にもわたる地道な活動が、後者は、地域貢献活動を「本業の一環として能動的に参画しよう」とする姿勢が高く評価された。創業90周年を機に、1700名を超える役職員全員が、地域住民の一員になりきって汗を流す取り組みは、これからの信用金庫における取り組みのお手本になるに違いない。

特別賞には、のと共栄信用金庫の「石動山での森づくり活動」と、鳥取信用金庫の「山陰海岸ジオパーク応援による地域貢献」が選ばれた。いずれも自然の恵みを大切にして次世代に受け継ぐとともに、地域の活性化を図ろうとする取り組みである。「本物の森が、人間の命を守ります」という前者の掲げたキャッチフレーズは、すべての日本人が共有したいものである。

地域活性化しんきん運動・優秀賞に選ばれたのは、渡島信用金庫の「協同組合への支援による地域貢献活動」と、多摩信用金庫の「地域と連携した創業・CB支援」である。渡島信用金庫の場合、南北海道15市町の中小零細企業の振興を図る狙いから、広域的な多業種の協同組合を立ち上げ、創業支援や販路拡大、ビジネスマッチング、同金庫の札幌支店を開放してのアンテナショップなどを展開している。

多摩信用金庫の場合、人口は400万人を擁しながらも、すでに生産年齢人口も事業所数も減少段階に入っている地域の魅力や価値を高めるためには、創業者やCB（コミュニティ・ビジネス）を増やしていかなければならないとの認識から、インキュベーション施設の開設や、シンポジウムの開催に取り組んでいる。自治体や商工団体、NPO、大学等とのパートナーシップによって推進しているのが特徴である。

個人賞には、鳥越基子さん（大地みらい信用金庫）、佐藤裕之さん（二本松信用金庫）と檜垣萌子さん（朝日信用金庫）が選ばれた。鳥越さんは、九州出身でありながら北方領土問題に強い関心を抱き、大学時代にロシアに留学、ロシアとの架け橋になりたいとの思いから根室市の同金庫の職員となった。ボランティア通訳などとして活躍している。佐藤さんと檜垣さんは、共に得意のスキーを通じた社会貢献だが、佐藤さんは青少年育成のために、檜垣さんは障がい者支援のために活動を続けている。

2. 受賞活動の概要

【会長賞】

青梅信用金庫（東京都）／官民広域連携による地域づくりの取り組み

河川は地域の間を「流れて結ぶ」ため、それが流域各自治体で「コモンズ（共有財産）」として認識され、行政と民間の連携・協働を生むベースとなった。また河川は同時に、「いのちの水=環境のシンボル」でもあり、持続可能な地域社会を実現するための、大きなファクターともなっている。

青梅信用金庫ではそのような考えを基本として、「美しい多摩川フォーラム」を設立し、「経済、環境、教育文化」を運動の3本柱に、水環境を守りながら地域経済の活性化に取り組み、さらに、子どもたちへの教育を通じ、地域の人々が生きがいを持って自立した生活が送れるよう、持続可能な地域社会の実現を目指している。

特に、「多摩川 夢の桜街道プラン」をシンボルプランとして、「交流人口の増加」による地域経済の活性化に取り組んでいる。

現在では会員数も1,100を超え、国や東京都をはじめ、多摩川流域22の自治体が行政会員として参加する一方、公益企業、一般企業、団体、NPO、大学、市民、子供など、民間からも幅広い参加を得ている。

【Face to Face 賞】

新井信用金庫（新潟県）／青少年図書充実基金への支援

「将来を担う青少年のためになる事業を行いたい」との思いから、昭和53年、同金庫の本店所在地である妙高市に基金を寄付し、小・中学校の図書購入資金を支援する「青少年図書充実基金」を設立した。

図書の購入は、同基金の運用収益金を活用して行われ、市の図書館や小・中学校で図書が購入されている。

図書購入資金の配分方法や図書の選定は、市教育長を中心とする妙高市青少年図書選定委員会で決定され、最終的には、各学校で必要と思われる図書を購入している。

平成23年までの33年間で、市の図書館や23の小・中学校において17,000冊を超えるの図書が購入されており、同基金で購入された図書は「基金図書」としてラベルが貼られ、関係者や生徒たちからもたいへん感謝されている。

なお、永年におよぶ上記の活動が認められ、平成16年には「妙高市功労賞」を受賞した。

【Face to Face 賞】

尼崎信用金庫（兵庫県）／あまちゃん・しんちゃんプロジェクト

尼崎信用金庫は、平成23年に創業90周年を迎え、より地域との連携強化を図るため、地域貢献活動を従来の「地域行事参加型の活動」から「本業のひとつとして位置づけ能動的に参画する活動」へと再定義した。

この取り組みは、協同組織金融機関として「地域住民の一員」であることを忘れず、地域社会のために汗を流すことを目的としたものである。尼崎信用金庫（本部・営業店）が主体となり、地域・自治体などとともに金融サービス以外の面でアクションを起こし、地域の課題解決に向け積極的に取り組むことで、地域から「共にアクションを起こしてくれる存在」と認知していただけることが重要であると考え、役職員全員で取り組んでいる。

【特別賞】

のと共栄信用金庫（石川県）／^{せきどうさん}石動山での森づくり活動

石動山での森づくり活動は、平成20年に同金庫と石川県が「県有林における企業の森づくり推進実施に関する協定書」を締結したことに始まる。

石動山の県有林を借り受けての活動では、毎年春と秋の2回、人工林の整備、下刈り、植林、林道整備や自然体験学習などが行われ、職員をはじめ、家族、地元住民など、約320人がボランティアとして活動している。

森づくりファンド「やまもり」は、本業である金融機能を通じて「山を守る」「山を盛りだくさんにする」という2つの意味を込めて作られた金融商品である。環境配慮型金融商品として初めて発売したこの商品は、森づくりに賛同してお預けいただいた預金者から、満期時に受け取れる利子の一部をファンドに寄付していただくというもので、その寄付金と金庫からの拠出金が森づくり活動の資金となっている。このような金融商品は全国初であり、毎年の追加募集でもすぐ完売となるほど、反響も大きい。

【特別賞】

鳥取信用金庫（鳥取県）／山陰海岸ジオパーク応援による地域貢献

ジオパークとは、科学的に見て貴重な地質遺産を含む自然公園であり、山陰海岸ジオパークは、京都府、兵庫県、鳥取県にまたがる広大なエリアを有している。

同金庫は、鳥取市に本店を置く金融機関の中で唯一兵庫県但馬地区にも支店網を配する地域金融機関であることから、山陰海岸ジオパークの「世界ジオパークネットワーク（GGN）」への加盟認定に向けての各種活動を支援してきた。

その結果、平成22年にGGNへの加盟が認定されたが、その後も引き続き応援活動は行われ、その評価は「鳥取信用金庫=山陰海岸ジオパーク」として地域社会に認められるまでになった。

応援活動を通じ、地方公共団体や地元商工団体等との良好な関係も構築でき、また、GGNへの加盟による波及効果としての観光客の増大など、観光関連業界からの期待も高まっている。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

渡島信用金庫（北海道）／協同組合への支援による地域貢献活動

北海道エリアの中小零細企業・生産者は、長引く不況や情報発信力不足等により、特産品やサービスがそれに見合った売上・利益を得ていなかった。

そこで、平成22年、同金庫が中小零細企業・生産者、北海道の市町に呼びかけ「北海道地産物流協同組合」を設立した。

営業力強化、販路拡大、広告宣伝の充実、企業イメージ向上、北海道ブランドの確立、人材育成を図り、北海道から日本全国へと特産品を広めることを目的とした同組合は、北海道の食品加工業者、農業者、卸売業、サービス業者等、31社からなる組合員と、北海道の15市町村と同金庫が賛助会員として参加している。また、同金庫の理事長が組合の顧問を務めている。

同金庫は、休日に札幌支店を特産品販売のアンテナショップ「みなほっの杜」として開放するほか、アドバイザーとしてイベント企画等の各種支援活動を行っている。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

多摩信用金庫（東京都）／地域と連携した創業・CB支援

創業者やCB（コミュニティビジネス）を増やすことが、地域の課題解決の担い手を育て、新たな産業・雇用を創り、地域の魅力や価値を高めることであると捉える同金庫は、地方公共団体や商工団体、NPO、大学等とパートナーシップを結び、①創業・CB支援の仕組み構築、②創業者へのハンズオン支援に取り組んでいる。

- ・インキュベーション施設：平成15年に「ブルームセンター」を開設するなど、多摩地域の公営・民営各種インキュベーション施設の開設サポート、セミナーの共催、創業塾の開催等に取り組んでいる。
- ・多摩CBネットワーク：コミュニティビジネスに関心を持つ個人、事業所、地方公共団体等により構成されており、同金庫は世話人、事務局として参画している。
- ・多摩市創業支援事業三社協定「123プロジェクト」：多摩市、多摩大学、同金庫の連携により創業支援を行っている。

【個人賞】

大地みらい信用金庫（北海道） 鳥越 基子 氏

／ 北方四島住民へのロシア語通訳ボランティア

鳥越氏は、北方領土への興味から大学時代にロシアに留学。その後もロシアとの架け橋になりたいという思いから、地域柄ロシアとの関係が深い大地みらい信用金庫に入庫した。

以来、根室で開催されているロシア人講師を招いてのロシア語勉強会サークルや外務省による支援事業、様々な交流事業などを通じ、地域住民とロシアとの交流につとめてきた。

今後も北方領土返還へ向け、ロシア語能力を活かしたパイプ役として、内外からの期待を一身に集めている。

【個人賞】

二本松信用金庫（福島県） 佐藤 裕之 氏 / スキーを通しての青少年育成活動

佐藤氏は「二本松スキースポーツ少年団」において、昭和56年に指導を開始。平成19年より団長として、運営、指導、技術向上、底辺拡大に尽力している。

競技スキーを目指す子供の指導・育成も行い、長年の指導で、東北大会への参加選手がのべ8名、全国大会への出場ものべ8名を数えるなど確かな実績を残している。

平成4年の二本松市スポーツ少年団本部功労者賞受賞をはじめ、数々の賞に輝いている。

【個人賞】

朝日信用金庫（東京都） 檜垣 萌子 氏 / ブラインドスキーサポーター活動

盲学校生の「スキーをやってみたい」という声を聞いた檜垣氏は、平成4年から「東京都盲人福祉協会青年部」主催のスキーツアーにボランティアとして参加。

平成15年にはブラインドスキーのサポーターサークル「T.A.B.S.」設立に参画し、現在も年3回開催されるスキーツアーの中心メンバーとして活躍している。

他にも、車椅子バスケットボールチームのマネージャーに就任するなど、障がい者スポーツの普及に努めている。

以 上

＜参 考＞ **第15回「信用金庫社会貢献賞」について**

【創設目的】 地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫の原点を踏まえ、地域の発展に貢献する信用金庫の真摯な姿を広くアピールし、お客様や地域の信頼を揺るぎないものとするとともに、地域での存在感を一段と高めていく。

【対象活動】 信用金庫にふさわしい地域に根ざした活動で、地域振興、社会福祉、芸術・文化支援、史跡・伝統文化保存、交通安全、教育支援、環境保全、各種ボランティアなどの地域社会活動および災害救助等の分野とする。

【表彰対象】 ・信用金庫および信用金庫役職員（個人・グループ）
・地区・府県信用金庫協会、中央団体

【選考基準】 活動の継続性（3年以上継続された活動であること。ただし、特別賞、地域活性化しんきん運動・優秀賞は除く）、活動目的の社会的意義、地域との一体性（地域に溶け込んだ地域の方々とは一体となった取り組み）、活動の困難度、援助を受ける側の評価・感謝の度合い、関係者または地域社会に与えた影響、活動内容・方法のユニークさ、などを総合的に判断する。

【応募期間】 平成23年11月1日から24年1月31日まで

【選考委員】 ※所属等は平成24年4月現在、敬称略

榎野	信治	読売新聞東京本社	メディア戦略局	総務
島田	京子	公益財団法人	横浜市芸術文化振興財団	専務理事
高橋	陽子	公益社団法人	日本フィランソロピー協会	理事長
中村	利雄	日本商工会議所		専務理事
堀田	力	公益財団法人	さわやか福祉財団	理事長
松岡	紀雄	神奈川大学		名誉教授
大前	孝治	一般社団法人	全国信用金庫協会	会長
服部	順一	信金中央金庫		副理事長
諏訪部	恭一	一般社団法人	全国信用金庫協会	広報委員会 委員長

【各賞の内容】

会 長 賞・・・活動の社会的意義、地域との一体感、地域社会に与えた影響等を総合的に判断し、最も優れた活動に対し与えるものとする。

Face to Face 賞・・・地域金融機関にふさわしい、地域社会に溶け込んだ、地域の方々との一体感を深めることに寄与した活動および地域金融機関の社会貢献活動として今後の取り組みが期待され、奨励される活動に対して与えるものとする。

特 別 賞・・・活動期間は短期間ではあっても、近年、関心の高い環境・社会問題への取り組み、災害復旧支援など、関係者や地域社会に大きく貢献した活動等に対して与えるものとする。

地域活性化しんきん運動・優秀賞・・・地域社会と中小企業の再生・活性化をめざす活動のうち、各々の地域社会の実情と信用金庫の特性に合わせたユニークで、他の範となる活動に対して与えるものとする。

個 人 賞・・・個人あるいはグループの取り組みで、信用金庫職員として他の範となる活動に対して与えるものとする。